

# 第 27 回 東北森林科学会大会

2022 年度(令和 4 年度)

## プログラム

と き : 2022 年 11 月 5 日 (土) ~6 日 (日)

ところ : 岩手大学農学部

(〒020-8550 岩手県盛岡市上田 3 丁目 18-8)

主 催 東北森林科学会  
共 催 一般社団法人 日本森林学会  
一般社団法人 日本森林技術協会  
後 援 岩手県, 岩手大学

第 27 回東北森林科学会大会運営委員会

〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町 1-23

山形大学農学部食料生命環境学科内

E-mail : 2022kikaku@tsfs.jp

## 大会に参加される皆様へ

### 受付

日時 11月5日(土) 午前10時00分より

場所 総合教育研究棟(生命系)1階ロビー

事前に参加費、懇親会費をお振り込み頂いていない方は、受付時にお支払いください。なお、今回の大会では要旨集はPDFのみでの発行となります。プログラムについては、簡易印刷したものを当日配布します。

大会参加費(当日)	2,000円(一般), 500円(学生会員)
-----------	------------------------

### 総会

日時 11月5日(土) 17:00-18:00

場所 総合教育研究棟(生命系)1階 7番講義室

### 懇親会

新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて、今回の大会では懇親会は開催いたしません。

### 編集委員会

日時 11月5日(土) 10:30-11:30

場所 農学部2号館1階 2号会議室

### 理事会

日時 11月5日(土) 11:30-13:00

場所 農学部2号館1階 2号会議室

### 昼食、宿泊等について

昼食及び宿泊につきましては、各自でご対応いただきますようお願い致します。なるべく公共交通機関をご利用ください。

### 学生優秀発表賞

学生優秀発表賞(学生ポスター賞)は、学生が発表する11月5日のポスターセッションより選考し、同日の総会にて受賞者が発表されます。

### 新型コロナウイルス対策

会場では必ずマスクを着用ください。また、来場前に体温を各自で測っていただき、発熱や体調不良の場合は来場をご遠慮ください。ポスター発表等では、距離を取って会話をさせていただくようお願いいたします。

# 大会日程

	11月5日(土)		11月6日(日)	
9:30				
10:00	受付		ポスター準備	口頭発表
10:30			ポスター準備	
11:00	ポスター準備	理事会	ポスターセッションB	
11:30	ポスターセッションA	理事会		
12:00		ポスターセッションA		ポスター回収
12:30				
13:00	ポスター回収及び準備	テーマ別セッションA		
13:30				
14:00	ポスター回収及び準備	テーマ別セッションA		
14:30				
15:00	ポスター回収及び準備	テーマ別セッションA		
15:30				
16:00	ポスター回収及び準備	テーマ別セッションA		
16:30				
17:00	東北森林科学会総会			
17:30	東北森林科学会総会			
18:00				
18:30				
19:00				
19:30				

## テーマ別セッション

■ テーマ A 11月5日(土) 13:45-16:45 総合教育研究棟(生命系) 1階 7番講義室

### 東北地方におけるナラ枯れ被害対策のこれから

コーディネーター：中村克典(森林総合研究所東北支所)

蓬田英俊, 小岩俊行(岩手県林業技術センター)

全国のナラ枯れ(ブナ科樹木萎凋病)被害量は、平成22年度の23.5万 $\text{m}^3$ をピークに減少傾向にあり、平成26年度には4.1万 $\text{m}^3$ まで減少した。しかし、東北地方の被害量は増加傾向にあり、令和2年度には、全国被害量19.2万 $\text{m}^3$ の41%を東北地方が占めるに至っている。東北地方には、ナラ枯れに感受性の高いミズナラが多く分布しており、被害対策を進める上での障害となっている。一方、かつて激害に見舞われた山形県では、平成21年をピークに被害は減少し、現在はピーク時の1割程度の被害となっている。

本シンポジウムでは、ナラ枯れ被害対策の全国的な動きや、東北地方の先進地域である山形県の経験や事例等を紹介してもらった上で、被害先端地域となっている青森県・岩手県の被害状況と対策、広葉樹利用の現状を発表してもらおう。その上で、広葉樹利用を進めながら、被害が拡大している地域で、または被害が蔓延した地域で何ができるのか、次の1手を探っていく。

#### 1 ナラ枯れの現状と課題

北島博(森林総合研究所)

#### 2 山形県でのナラ枯れ被害対策の経過と引き継ぐこと

斉藤正一(山形大学農学部)

#### 3 先端地の被害状況と被防除対策

伊藤昌明(青森県産業技術センター林業研究所)

#### 4 岩手県のナラ枯れ被害の現状と対策

中嶋康(岩手県農林水産部森林整備課)

#### 5 岩手県のナラ枯れ被害の特徴と防除実証試験

小岩俊行(岩手県林業技術センター)

#### 6 岩手県における広葉樹の流通・利用

谷内博規(岩手県林業技術センター)

※発表後総合討論を実施

## ポスターセッション

今大会も2日間に分けて実施します。セッション開始時刻までに、ご自分の番号（下記参照）のパネルにポスターを貼ってください。開催要領でご案内のとおり、パネルは「幅 90cm, 高さ 180cm (縦長)」です。コアタイムには発表者はポスター前に立って説明し、質疑を受けて下さい。コアタイムは奇数番号が1日目、偶数番号が2日目になります。

### ポスターセッション1日目

11月5日(土) 11:30-14:00 南講義棟2階 5番講義室および6番講義室  
10:30-11:30 ポスター準備  
12:45-13:45 コアタイム(奇数番号)  
14:00-17:00 ポスター回収・準備 ※2日目もそのまま貼っておくことが可能です

### ポスターセッション2日目

11月6日(金) 10:30-13:00 南講義棟2階 5番講義室および6番講義室  
9:30-10:30 ポスター準備 ※1日目から貼っておくことが可能です  
12:00-13:00 コアタイム(偶数番号)  
13:00-14:00 ポスター回収

- 1\* 鶴岡市におけるオオバクロモジの資源量  
佐々木瑠偉, 古川泰成(山形大学大学院), 斎藤正一, 新野亜依, 芦谷竜矢(山形大学)
- 2 クロマツ苗へのマツノザイセンチュウ2か所接種における接種部位による選抜強度の違い  
村川直美子, 宮下智弘, 渡部公一(山形県森林研究研修センター)
- 3\* クロマツ葉の揮発成分による昆虫類の誘引・忌避活性  
新野亜依, 斎藤正一, 芦谷竜矢(山形大学)
- 4 クロモジの部位別精油抽出率の比較  
大高千怜, 小川秀樹, 久保智裕, 齋藤直彦, 小野武彦(福島県林業研究センター)
- 5\* 両生類の産卵場所としての林道脇の水たまり: トウホクサンショウウオの事例  
笹岡夏保, 斎藤昌幸(山形大学大学院)
- 6 カラマツ苗の菌根菌接種源としての胞子利用の可能性  
村田政穂, 三浦正嗣, 菅原冬樹(秋田県林業研究研修センター)
- 7\* 冷温帯におけるニホンリスによるスギ人工林利用  
本田鈴香, 斎藤昌幸(山形大学大学院)
- 8 庄内空港クロマツ防風林帯35年の軌跡  
渡邊潔, 渡部公一, 藤城彰人, 青木聡樹(山形県森林研究研修センター)
- 9\* カメラトラップを用いた哺乳類による林道利用の評価  
鈴木美緒, 斎藤昌幸(山形大学大学院農学研究科)
- 10 秋田県におけるサンショウウオ属2種の同地産卵について  
丹羽奎太(秋田県林業研究研修センター), 森井椋太(岩手大学大学院連合農学研究科)

- 11 東日本大震災から8年後に伏せ込んだシイタケホダ木と子実体のCs濃度に  
地表のCsが及ぼす影響  
成松眞樹（岩手県林業技術センター）
- 12 福島県における樹幹へのMEP散布によるカシナガ防除効果  
齋藤直彦（福島県林業研究センター）
- 13 広葉樹植栽実験林4種40年間の生残と成長及び樹形  
和田覚，新田響平（秋田県林業研究研修センター）
- 14 ハタケシメジの菌糸選抜による優良菌株作出  
玉田克志，目黒渚（宮城県林業技術総合センター）
- 15 スギ精英樹後代実生検定林30年次調査において得られた若干の知見  
佐藤博文・菅原冬樹・三浦正嗣・丹羽奎太（秋田県林研セ）
- 16 宮城県におけるカラマツ挿し木苗生産技術の開発一発根に適した管理手法の検討一  
山崎修宜（宮城県林業技術総合センター）
- 17 伐採等による年最大・最小日流出量の変化 一釜淵試験地・竜ノ口山試験地での事例一  
玉井幸治（森林総合研究所）
- 18 少雪年と多雪年における春先の水流出の特性  
田村浩喜（秋田県林セ），野口正二（国際農研）  
阿部俊夫（森林総研東北），飯田真一（森林総研）
- 19 クロマツ海岸防災林における初回本数調整伐による残存木への影響  
名取史晃（宮城県林業技術総合センター）
- 20 オオシラビソにおける、主幹から分枝した枝での球果の分布について  
関剛（森林総研・北海道）
- 21 山形県におけるスギ再造林地での下刈り省略の可能性  
藤城彰人（山形県森林研究研修センター）
- 22 ブナ壮齢林における微地形と主要樹種の分布  
新田響平，和田覚（秋田県林業研究研修センター），大貫靖浩（森林総合研究所）
- 23 秋田県におけるニホンジカの侵入経路と越冬箇所  
菅原悠樹，長岐昭彦（秋田県林業研究研修センター）  
高橋裕史，相川拓也（森林総合研究所東北支所）
- 24 履歴の異なる2つの作業道における間伐後4～5年目までの濁水流出量  
阿部俊夫（森林総研東北），野口正二（国際農研），田村浩喜（秋田県林セ）
- 25 アカギを培地基材としたアラゲキクラゲ菌床栽培における栄養材組成の検討  
三浦正嗣・村田政穂（秋田県林業研究研修センター）
- 26 山形県の特用樹植栽地の現況について  
青木聡樹，伊藤聡，中村人史（山形県森林研究研修センター）
- 27 山形県庄内海岸クロマツ林におけるマツノザイセンチュウ潜在感染木の発生実態  
渡部公一，渡邊潔（山形県森林研究研修センター）

- 28 東北育基本区で開発されたザイセンチュウ抵抗性アカマツおよびクロマツの抵抗性評価  
井城泰一，宮本尚子（森林総合研究所林木育種センター東北育種場）
- 29 茎葉処理除草剤使用によるウルシ萌芽の推移  
中村人史（山形県森林研究研修センター）
- 30 コナラ萌芽枝の放射性物質濃度測定結果に関する報告  
目黒渚，玉田克志（宮城県林業技術総合センター）
- 31 落葉広葉樹 2 種の木部の老化特性  
梅林利弘（秋田県立大学生物資源科学部），野末尚希（静岡県農林技術研究所）  
内海泰弘（九州大学北海道演習林），大村和也，山田利博（東京大学秩父演習林）

\* 学生優秀発表賞（学生ポスター賞）の審査対象

## 口頭発表

11月6日（日）10:00-11:15 総合教育研究棟（生命系）1階 7番講義室

口頭発表は1題15分（発表12分、質疑応答3分）厳守でお願いします。発表者は、次の発表の座長を務めて下さい。配付資料のある発表者は御自身で必要枚数をご準備下さい。USBフラッシュメモリ等に保存したPowerPoint用ファイルを、当日口頭発表開始前までに会場のパソコンにコピーしてください。なお、会場のパソコンはWindows10、PowerPointのバージョンは「2019」の予定です。円滑な進行のため、パソコンの持ち込みはお断りいたします。

- 10:00-10:15 1 多雪地域における積雪深に応じたニホンジカの越冬箇所の変化  
長岐昭彦，菅原悠樹（秋田県林業研究研修センター）  
相川拓也，高橋裕史（森林総合研究所東北支所）
- 10:15-10:30 2 種内変種とされてきたアカイタヤとエゾイタヤをなぜ別種として再検討すべきか  
森茂太，黒澤陽子（山形大）
- 10:30-10:45 3 海岸林のギャップ（林孔）におけるケヤキ植栽後の生残と土壌環境の関係  
萩野裕章（森林総研東北）
- 10:45-11:00 4 根系育成による成長の最適化技術は可能か  
黒澤陽子，森茂太（山形大学）
- 11:00-11:15 5 東北・北海道地域の森林組合における「山の神」祭行事の特徴と地域性  
西川希一（鹿児島大学農林水産学研究科）

## 会場等の案内

会場へのアクセスは、公共交通機関等をご利用ください。宿泊については各自ご対応ください。

大会会場案内図



<https://www.iwate-u.ac.jp/campus/facility/map.html>

### 【岩手大学農学部】

徒歩： JR 盛岡駅から約 2 km、約 20 分

バス利用： JR 盛岡駅 11 番乗り場より (約 20 分おき、所用時間約 10 分)

松園バスターミナル行 または 桜台団地行乗車

岩手大学前下車 片道 220 円

※帰りは上田二丁目からになります。正門の案内板をご覧ください。

### 大会に関する問い合わせ先

〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町 1-23 山形大学農学部食料生命環境学科内

第 27 回東北森林科学会大会運営委員会

事務局: 斎藤 昌幸 TEL 0235-28-2946

E-mail: 22kikaku@tsfs.jp

### 第 27 回東北森林科学会大会運営委員会

林田光祐 (山形大学農学部: 委員長), 高橋清隆 (岩手県林業技術センター),

芦谷竜矢 (山形大学農学部), 斎藤昌幸 (山形大学農学部: 事務局)